

1 学年・教科
6年・社会

2 単元名・活動名
近代国家を目ざして

3 活動のねらい

日露戦争の影響や朝鮮併合、条約の改正について調べ、日本と外国との関係の変化を捉えることができる。

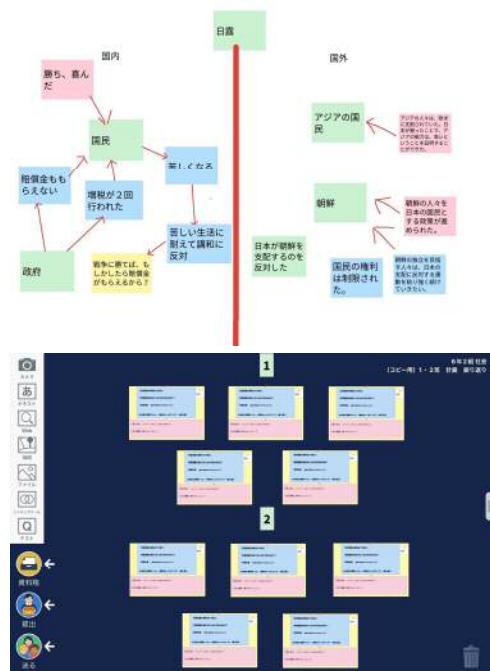
4 主に使用したアプリケーションなど
ロイロノート（共有ノート）

5 学習の流れ・主な学習活動と内容

学習の流れ	主な学習活動と内容
導入	①前時までの復習をする。 ②本小単元で設定した学習問題の答えを予想する。 ③本時のめあてを設定する。
本時の展開	④資料から情報を読み取り、関係図や文章にまとめる。 ⑤まとめた関係図や文章をペアで伝え合う。
まとめ	⑥本時の学習の振り返りと次時の課題をもつ。

6 活用の様子（写真等があれば交えて）

③、④、⑥の活動をロイロノートの共有ノート上で行った。共有ノートを用いることで、児童同士が他者参照しながら学習を進めることができる。以下のように複数人で同時に編集したり、お互いの文章を画面上で見合ったりする姿が見られた。



7 児童生徒の反応

画面上で、他の児童の書いた情報に意見を付け足すなど、情報共有を素早く行っていた。それによって、普段自分の意見をもちづらい児童も意見をもつ姿が見られた。

8 実施の手応え

より多くの資料から情報を集めることが容易になったことには手応えを得た。ただ、画面上でのやり取りに集中して直接のコミュニケーションが減るなどの課題もあった。

学校名 大井第一小学校

1 学年・教科
6年・国語

2 単元名・活動名
題材名「みんなで楽しく過ごすために」

3 活動のねらい

- ・目的や条件に応じて話し合い、グループの中で一つの納得解を生み出すことができる。
- ・他のグループの話し合いの様子を見合い、相互評価をすることができる。

4 主に使用したアプリケーションなど
ロイロノート・スクール、OneNote

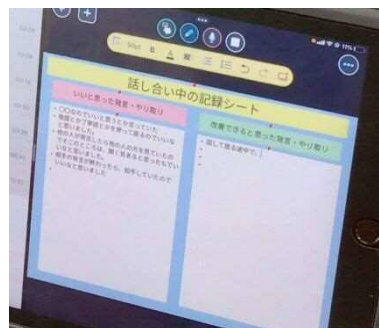
5 学習の流れ・主な学習活動と内容

学習の流れ		主な学習活動と内容
本時の展開	導入	○本時の目的と流れを確認 目的や条件に合わせて、よりよい一つの考えを生み出そう。
	展開	○前時までの内容の振り返り ・話し合いの目的や方向性を確認する。 ○議題に沿って話し合う ・考えを積みかさねる際には、根拠や理由を視覚で共有しながら進める。 ○他グループが話し合いを評価する ・ロイロのシートに内容をまとめたり、音声で記録をしたりしながら、良い点と改善点を記録する。 ○相互評価を行う
	まとめ	○学習を振り返り、記録に残す ・話し合いの記録とともに、話し合い方の振り返りも一緒に行って記録する。

6 活用の様子（写真等があれば交えて）



話し合いをするグループ（右側）を囲んで、評価するグループ（左側）が記録を取りながら話し合いの様子を聞いている。後で振り返れるように音声による記録も行っている。



話し合いの記録シートには発言・やり取りの良さや課題を書き記すだけでなく、根拠の妥当性や課題に対する解決策も記録することで、相互評価の際により厚みのあるフィードバックをすることができる。

7 児童生徒の反応

OneNote やロイロノートで既習事項をいつでも振り返ることができるため、議論が停滞した時や、自らの意見に根拠を持たせたい時に、すぐに情報を引き出して話し合いに活用していた。

8 実施の手応え

テーマに沿って話し合う活動と同時に、相互評価を行った。児童にとっては高度な取組ではあるが、多様な視点を得ることによって、児童はさらに気付きの質を高めることができた。他グループの話し合いを記録することで、自らの話し合い方や意見の持ち方を振り返ることができた。

1 学年・教科
4年・市民

2 単元名・活動名
Sota をプログラムして動かしてみよう

3 活動のねらい

ロボットを思い通りに動かしてみるにより、生活の中の自動化のしぐみに興味をもったり、発見したりする。

4 主に使用したアプリケーションなど
Sota と始めるフローチャート

5 学習の流れ・主な学習活動と内容

学習の流れ		主な学習活動と内容
本時の展開	導入	○学習の見通しをもつ ・教師の例を見ながら、「Sota と始めるフローチャート」の使い方を知る。
	展開	○グループごとに自分の考えたプログラムを組む。 ・イメージした動きに合ったフローチャートを考えさせる。
	まとめ	○日常生活にはプログラムされたものがたくさんあることを知る。 ・プログラミングを活用することで、生活が便利になることに気付く。

6 活用の様子（写真等があれば交えて）



フローチャートの見本を参考にしながら、自分のイメージする動きをするためのプログラムを考えていた。



グループで話し合いながら、ロボットができる動きを確認していた。

7 児童生徒の反応

自分のイメージする動きを行わせるために、グループで話し合い、試行錯誤をしながらプログラムを組む様子が見られた。

8 実施の手応え

ブロックプログラミングに比べて、フローチャートは決められた枠に自分のさせたい動きを入力するだけなので、理解度による差が生まれにくく、どの児童も意欲的にプログラミングに取り組むことができていた。

1 学年・教科
5年・図工

2 単元名・活動名
My キャラが動き出す

3 活動のねらい

イメージを膨らませて作った My キャラをストーリーや場所も考えながら、コマ送り動画を作ることができる。

4 主に使用したアプリケーションなど
ロイロノート、KOMAKOMA

5 学習の流れ・主な学習活動と内容

学習の流れ		主な学習活動と内容
本時の展開	導入	○コマ送りのアニメーションの例を見る。 「ニャッキ」「羊のショー」などをみてイメージをわかせる。
	展開	○自分のイメージを具体化する。 ① ストーリー ② 登場人物 ③ 用意するもの、場面などを考える。 ○具体化したものを紙粘土で作成する。 自分で考えた My キャラを紙粘土で作る。 ○「KOMAKOMA」を使って写真撮影をする。 自分で作った My キャラを動かしながら撮影し、「imovie」や「GarageBand」で編集する。
	まとめ	○全体発表 友達が作った作品を見合い、感想を書く。

6 活用の様子（写真等があれば交えて）



自分で考えた My キャラを活躍させる場づくりをする様子。

様々な工夫を凝らし、撮影をしていた。



撮影場所は机の上に限らず、あえて床の上で撮影する人もいた。

7 児童生徒の反応

自分で考えた My キャラを紙粘土で作成し、イメージを膨らませながら活動していた。動画の編集作業も工夫しながらしっかりとできていた。

8 実施の手応え

「KOMAKOMA」を使用することで、楽しそうにコマ送りの動画を作ることができていた。座学が苦手な子も集中して取り組むことができていた。

1 学年・教科
6年・理科

2 単元名・活動名
月の形と太陽・グループの実験等の発表

3 活動のねらい

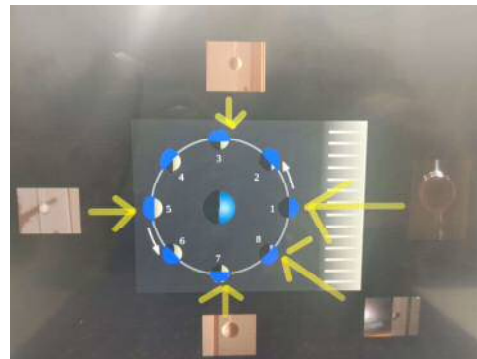
月の形はなぜ日によって違うのかについて、モデル実験をしたり、結果を考察したり、でてきた疑問について調べ学習をした内容をグループごとに発表することで互いの考えや学びを深める。

4 主に使用したアプリケーションなど
ロイロノート PowerPoint など

5 学習の流れ・主な学習活動と内容

学習の流れ		主な学習活動と内容
本時の展開	導入	発表の流れについて、話すとき聞くときの注意点を説明。 発表後には、各グループのよいところを見つける。質問があれば伝える活動を確認する。
	展開	1. 各グループの発表 iPad、powerpoint、ロイロノートを活用 2. よいところみつけ ロイロアンケート機能
	まとめ	全体のふりかえり 各グループのよいところ見つけやふりかえり内容を読んで思いを伝え合う。今後に向けての改善点などを記録する。

6 活用の様子（写真等があれば交えて）



月は常に球形だが日によって見える形が変わることについて、各グループがそれぞれに計画したモデル実験を進めていた。



モデル実験を行った後は結果やわかったことを相談しながら、わかりやすい発表になるよう用いる用語について検討していた。

7 児童生徒の反応

児童らはモデル実験の計画段階からイメージをiPadの描画機能などを用いて伝え合ったり、下調べしたりして実験を進めていた。発表でもロイロなどの発表ツールがやりやすいと言っていた。

8 実施の手応え

ロイロノートのアンケート機能を活用して発表後のお互いの良いところや質問したいこと、感想などを効率的に共有したり、伝え合ったりした。また、発表の仕様づくりもICT機器を活用することにより時間的に短縮ができ、かつ児童の考えを表現しやすい場の設定ができた。

1 学年・教科
6年・国語

2 単元名・活動名
表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう

3 活動のねらい

- ・自分のものの見方を伝えるために効果的な言葉や表現の工夫を考え、文章に書くことができる。
- ・友達と文章を比べることで、効果的な表現の工夫を取捨選択することができる。

4 主に使用したアプリケーションなど
ロイロノート

5 学習の流れ・主な学習活動と内容

学習の流れ		主な学習活動と内容
本時の展開	導入	○鳥獣戯画を読んで、自分の興味のある絵の解説文を書く活動に見通しをもつ。 ・解説文で取り入れたい言葉集を確認する。 ・めあての確認 「解説文を伝え合い、効果的な言葉や表現の工夫を考えよう。」
	展開	○表現の工夫がある解説文と工夫のない解説文を提示し、どのような解説文を書けばよいか確認する。 ○自分が書いた解説文を読み返し、加筆・修正する時間を取る。 ○3人組でグループを作り、完成した解説文を伝え合い、相互に表現の工夫についてのアドバイスを送る。 ・ロイロノートを使って、円滑にグループ交流ができるようにする。
	まとめ	・解説文を伝え合い、友達からどのようなアドバイスをもらったか全体で共有する。 ・具体的な表現を紹介し、次時に生かせるようにする。

6 活用の様子（写真等があれば交えて）



事前に行った鳥獣戯画の学習において、ロイロノートを使って、筆者の絵の評価をまとめ、自分なりにも絵の評価をしました。



同じ絵の解説文を書いた3人組を作って、それぞれの解説文を、ロイロノートを使って発表し合いました。



友達の解説文を読み、表現の工夫があるところに赤い線を引き、アドバイスをしたい文には青い線を引いています。

7 児童生徒の反応

自分が書いた絵の解説文と友達の書いた解説文を比べながら、お互いに工夫した文章表現を見付けた。自分で絵を選ぶことができたので、主体的に絵の解説文を書くことができた。

8 実施の手応え

3人組の交流活動は、以前にも取り組んだが、ロイロノートを使っでの交流は初めて行った。ただ伝えるだけでは、聞く側が聞いて終わりになりがちであったが、視覚的にも捉えることができ、さらに赤線や青線を書き込めるので、アドバイスや良かったポイントを明確に伝えることができ、深い学びにつなげることができた。

1 学年・教科
5年・音楽

2 単元名・活動名
音のスケッチ 『ずれ』の音楽を楽しもう

3 活動のねらい

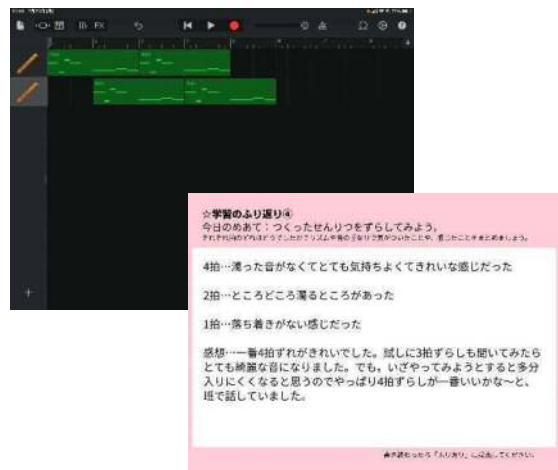
つくった旋律を様々な拍でずらすことにより、グループで何拍ずらしにして音楽をつくるか、思いや意図をもつ。

4 主に使用したアプリケーションなど
ロイロノート、GarageBand

5 学習の流れ・主な学習活動と内容

学習の流れ		主な学習活動と内容
本時の展開	導入	・これまでに例としてつくった旋律を様々な拍でずらし、学級全体でずれの音楽について再度確認をする。
	展開	・GarageBandの使い方を確認する。 ・GarageBandを使い、グループでつくった旋律を4拍、2拍、1拍とずらしたものを聴く。
	まとめ	・それぞれの拍のずれについて感じたことを、ロイロノートにて記入し、提出する。

6 活用の様子（写真等があれば交えて）



・ずらす拍に応じたメモリ分、「横にずらす」という作業を通して、視覚的にも旋律がずれていることを感じる事ができた。

7 児童生徒の反応

- ・拍のずれを簡単に聞き比べることができ、それぞれの良さを聴いて感じる事ができた。
- ・4拍、2拍、1拍以外にも細かいずれを試す様子があり、表現の工夫につながった。

8 実施の手応え

旋律をこちらで手入力する大変さはあったが、「楽器で演奏して試す」という技能の部分での負担が減り、ずれを感じ取ったり、拍による違いを比べたりすることに集中できた。

1 学年・教科
2年・算数

2 単元名・活動名
「かけ算」 図を見て、基準量となる数のまとまりをいくつか見いだして、かけ算を活用して解決する。

3 活動のねらい
同じ数のまとまりに着目して、L字型に並んだものの数をかけ算を使って求めることができる。

4 主に使用したアプリケーションなど
ロイロノートスクール

5 学習の流れ・主な学習活動と内容

学習の流れ		主な学習活動と内容
本時の展開	導入	○問題を把握する。 ・問題と絵を見て、問題場面をとらえる。
	展開	【同じ数のまとまりに目をつけて、かけ算をつかって考える。】 ○自力解決の時間 ・図や式を使って考える。 ○話し合い（近くの友達） ・どのように考えたかを伝える。 ・工夫したことや気づいたことについて話し合う。 ○話し合い（全体） 友達の考え方と比べて、似ているところや違うところはあるかを確認する。 ○練習問題を解く。
	まとめ	○まとめを書く。 ・学習の振り返りをノートに書く。

6 活用の様子



・配布された図のテキストに書き込んでいる。



・同じ数になる部分が見つけれない児童が、ロイロノートで共有された友達の図を見て参考にしている。



・自分に合ったコース（レベル別）の練習問題をロイロノートで解いている。解いたものは提出箱へ提出する。

7 児童生徒の反応

ロイロノートで考えを共有することで、自分とは違った考えを知ったり、どのように考えたのかと思考を膨らませたりしていた。友達と話し合う5分間も、しっかりと考えを伝え合っていた。

8 実施の手応え

ロイロノートで考えを共有することにより、より児童の考えや視野が広がったり深まったりした。持て余していた時間が減り、しっかりと思考する姿が多く見られるようになってきた。低学年は、自分の考えだけに固執しがちだが、友達の考えにより多く触れるよい機会となった。